

インターバンクの声（2015年8月3日）

先週末発表された7月のユーロ圏消費者物価指数（HICP）速報値、コアは前年比+1.0%となり、昨年4月以来の高水準に。総合指数の伸びは+0.2%と低水準な結果となったもののインフレ率は改善方向にあるとの見方がユーロの支援材料に。さらに月末の需給要因を背景にしたドル売り優勢の流れもユーロ買いの一因に。こうした状況下で発表された米4-6月期四半期労働コスト指数が統計開始以来、33年ぶりの低水準となる+0.2%（予想：+0.6%、前期+0.7%）と大幅に低下したことからドルが対主要通貨で全面安となりユーロは1.09台後半から1.1115ドルまで急伸。

さて、ユーロは1.10ドル台を突き抜け1.11ドル台まで上昇したことから、『理由はともかく買い遅れるな！』といった心理状態が何よりも優先され1.11ドル台で買い増し。その後、1.10ドル台後半へと緩やかな反落の中『ここは買い場！』と思い込み買い増し、結果的に1.0964ドルまで下落し、損失が膨らむと『ユーロってわからないよね？！』と嘆きの声があちらこちらで聞かれる始末。思い当たる人、案外多いかもしれません。

結局、理由もなく行き過ぎか否かの判断をする冷静さを失った状態で『飛びつく』という行動自体が、まさに『Sale！』『激安！』『今だけ！』などの宣伝に流されて買ってしまい、家に帰って鏡の前で『色が合わない、やっぱりサイズがあわなかった』といった普段の行動と似ている、そんな思いに共感する人、一緒に反省して心機一転、頑張りましょう！

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。